

寿屋フロンテ株式会社
CSRレポート2026年



KOTOBUKIYA FRONTE
寿屋フロンテ株式会社

社 是

感謝と反省から創意と工夫は生まれる

経営方針

■ グローバルで強靱な競争力を有する企業になる

既存コア事業の中で自社の強みを見極め、品質・ものづくり・開発・販売・調達面での改善力、提案力を強固なものとする。

■ グローバルでお客様に必要とされる企業になる

市場調査や他社ベンチマークに基づき自社オンリーワンの品質・ものづくり・開発・技術力を駆使したクリエイティブな提案をする。

■ 従業員が生き生きと働ける企業になる

人事制度・財務制度・業務改革（DX）等の経営基盤を強化し、持続可能（サステナブル）な社会の実現に向けて貢献する。

中期経営計画

■ Build up Foundation for the future

3つの柱、7つの重要課題から、事業基盤（事業を維持・発展させていくためのビジネスの土台）と経営基盤（経営を維持・発展させていくための会社の基盤）を戦略的に鍛え上げて、収益・体質改善を行う。

事業紹介

当社は1945年の創業以来、自動車内装部品のパイオニアとして、繊維素材の可能性を追求してきた。

長年培った製品開発力に加え、車室内の静粛性を高める音響コントロール技術、燃費向上に寄与する軽量化技術を強みとし、お客様の求める品質・コスト・納期に応えるものづくりを国内外の生産拠点で展開している。

近年は再生材やリサイクル素材の採用、生産工程における省エネ・廃棄物削減にも取り組み、環境負荷の低減と快適な車室空間の両立を進めることで、お客様・取引先・地域社会から信頼される企業を目指している。

技術紹介

■ シャシーダイナモメータ／物性テスト／3Dプリンター

実際の走行状態や環境を再現した性能確認、素材強度の物性テスト、設計レビューを通じて、高性能で安全な製品づくりを推進。

■ CAD設計／デザインレビュー／工程改善

設計標準化、プロジェクト管理、QCD視点での開発管理により、お客様の要求に応える品質・性能・納期を追求。

■ 吸音シート・防音シート

自動車向け製品の音響と繊維成形の技術を活かし、建物のインテリアや建築資材向けの製品を提供。快適な音空間を創出。

■ 独自開発の軽量化素材Light PU

樹脂の折り畳みHoneycomb Coreを基本構造として軽量化を実現。剛性や吸遮音をコントロールでき、様々な形に成形可能

目次

会社紹介	01
ネットワーク	02
沿革	03
主要製品	04
トップメッセージ	05
基本方針	06
環境(E)	07-08
社会(S)	09-10
ガバナンス(G)	11-12

会社紹介・ネットワーク

設立	1948年12月25日
資本金	3億725万円
売上高	単体 173億円／連結 562億円（2025年度）
本社所在地	〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-13 虎ノ門吉荒ビル9階
事業内容	自動車内装材部品の製造・販売
人員	単体 339名（2026年4月1日現在） グループ 2,026名（2025年12月31日現在）
決算期	3月末日（年1回）
主要製品	フロアカーペット、ダッシュインシュレーター、 フードインシュレーター、パッド&スペーサー、ト ランク&ラゲッジ部品（M-lightボード材）、シー トバック（T's-Lightボード）等
国内拠点	本社、埼玉オフィス、開発技術センター、埼玉工場、 九州工場、九州工場第2工場、九州工場苅田分工場、 中部工場、中部フロンテ 等
海外拠点	中国、タイ、インドネシア、アメリカ、メキシコな ど5ヶ国9か所に展開



アメリカ



中国



タイ



インドネシア



メキシコ



沿革



1940-50年代

1945年、寿屋商店東京店創業。
1948年、株式会社寿屋商店東京店として設立。
■ 創業期：ものづくりの原点と事業基盤の形成

1960年代

寿屋フロンテ株式会社へ改称、埼玉工場稼働開始。
■ 量産体制の整備：自動車内装部品メーカーとしての基盤確立

1980-90年代

埼玉第2工場、中部フロンテ、九州工場、インドネシア拠点を展開。
■ 国内生産の拡充から海外展開へ

2000年代

中国、タイ拠点展開。Treves S.A.・Milliken社との提携し・米国・メキシコ拠点を展開。
■ 技術連携とグローバル供給体制の強化

2010年代

九州工場苅田分工場、九州工場、九州工場第2工場、中部工場、埼玉オフィスを展開。
■ 生産・開発・営業機能の強化

2020年代

IATF16949取得、埼玉工場A棟竣工、米国拠点への出資。埼玉第2工場を開発技術センターに改称。新オフィスへ移転。
■ 品質基盤と北米展開を強化し、次の成長へ

主要製品

ダッシュインシュレーター

エンジンルームと室内空間の間に装着しエンジン音の室内への侵入を低減。 エンジンから放出される熱からブレーキ配管などの部品を守ります。【遮音】、【断熱】、【振動防止】等の役割を果たし更なる高機能化・軽量化を進めています。



フードインシュレーター

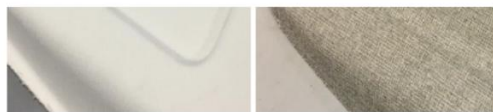
ボンネットフードの裏面に設定される部品。エンジンルームからの音を居室内や車両室外に伝わらないよう遮断する機能を持ち、フードパネルの形状を隠し、エンジンルームの高級感へも貢献しています。



シートバック (T's-Lightボード)

スタイリッシュで機能的な成形シートバック。寿屋の内装材表皮開発力と部品成形技術を使った新領域の商品開発です。

繊維の特徴を生かした基材を成形してスタイリッシュなデザインと軽量化、膝周りの居住性確保、吸音効果、部品削減、工数削減による作業性の向上を実現します。



エンジンアンダーカバー

エンジンルームの下側を保護し、車体下側を通る空気を整流し、車両空力特性向上へも貢献する部品。従来の樹脂インジェクションやプレス成型品に変わり、繊維で成形し、製品強度・剛性を確保しつつ軽量化を実現しています。



フードインシュレーター

エンジンアンダーカバー



ヘッドライナー



トノカバー



ラゲッジフロア



ホイールハウス



フロアカーペット



フロアマット



シートバック



フロアカーペット

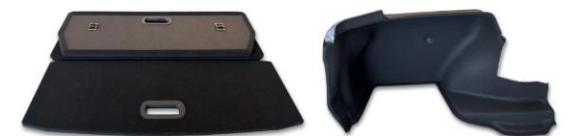
フロアカーペットなどの成形技術も、快適な居住空間を演出するためにかかせない技術のひとつ。最先端テクノロジーによる複雑な成形やトリミングによる製品化で、【吸遮音】、【断熱】、【振動防止】等高品質な空間をお届けします。



トランク＆ラゲッジ部品 (M-lightボード材)

自動車トランクルームやラゲッジフロア内に装着されるフロアカーペットです。トランクルームやラゲッジフロア内の装飾、荷物及びパネル表面の傷つき、破損の抑制、トランク、ラゲッジフロア部の平滑化、軽量化にも優れた素材を使用し【吸遮音】の機能も有しております。

トランクルーム内の側面に装着されます。トランク、ラゲッジ内のサイド部の装飾、荷物及びパネル表面の傷つき、破損の抑制、【吸遮音】材として外部からの侵入音を抑えたり、【結露防止】(寒冷地の場合)の機能も有しております。



フロア・アンダーカバー

車体フロアの下部を保護し、車体下側を通る空気を整流し、車両空力特性向上へも貢献する部品。従来の樹脂インジェクションやプレス成型品に変わり、繊維で成形し、製品強度・剛性を確保しつつ軽量化を実現しています。



パッド＆スペーサー

・パッド
床面のパネルとフロアカーペットの間に装着する樹脂発泡品。【衝撃吸収】機能を持っており、万が一の衝突時、乗員の足への衝撃を和らげ、被害を軽減します。



・スペーサー
複雑な車体のパネル形状とフロアカーペットの間に設定され、フラットな足元と快適な踏み心地を提供。また、車体下部から室内に入る騒音、ロードノイズを低減する【吸遮音】効果を持たせる事も出来、材料や形状により特性要求にも対応します。

プロテクターホイールハウス

タイヤハウス内側に装着します。ホイールハウスを形成するパネルやその周辺部品を水や泥はね、雪、小石から防護、タイヤノイズの軽減などの【吸遮音】、ホイールハウス部の見栄え向上の役割も果たします。



トップメッセージ

自動車業界は100年に一度と言われる大変革期をむかえ、グローバルで大きく電動化へシフトしています。

日本でも2035年までに新車販売100%を電動車にする方針が掲げられています。

また社会的責任においてもEV化に伴う工場再編や新技術への対応により、従業員の再教育や雇用維持が重要課題となっており、各社が積極的に取り組んでいます。

ガバナンスを含む総合的な取り組みにおいては、自動車メーカーを中心にCSRレポートの形式で情報開示を行っており、サプライヤーにおいても情報開示の広まりは起こっております。

当社は環境、社会、ガバナンスの各分野で以下の様に継続的な取り組みを行い情報開示を致します。



1. 環境への取り組み

当社は、2050年カーボンニュートラルの実現を目指し、CO₂排出量の削減に向けた具体的な行動を行っています。太陽光発電設備の導入、LED照明への全面切り替え、工場内のエネルギー管理システム（EMS）の導入により、2019年度比で2025年度については16.1%のCO₂排出量削減を達成しました。また、製品設計段階からのLCA（ライフサイクルアセスメント）導入により、環境負荷の見える化と改善を進めています。

2. 社会との共生

地域社会との共生を重視し、地元自治体や教育機関と連携した清掃活動、工場見学、職業体験プログラムを継続的に実施しています。また、災害時の地域支援協定を締結し、緊急時の物資供給体制の整備も進めています。

社内においては、多様な人材がいいきと働ける働きがいのある環境づくりを目指し、ダイバーシティ&インクルージョンの推進に取り組んでいます。女性管理職比率の向上、外国籍社員の採用拡大、障がい者雇用の促進に加え、全社員を対象としたメンタルヘルスケア体制の強化を行いました。



3. ガバナンスの強化

コンプライアンスを経営の重要テーマの一つとして位置付け、これらの強化、啓蒙、教育活動を推進しています。社内にコンプライアンス委員会を設置し法令遵守に対応しています。また、情報セキュリティにおいてもサイバー攻撃や、情報漏洩リスクに対し有効的な対策を講じ、保有する情報資産を安全に管理しています。

CSRは技術力、資金力と並ぶ会社にとって最も重要かつ最低限備える要素の一つであり、活動自体は当然の事と考えています。当社は常に社会のニーズに応じた活動を継続して行っています。

寿屋フロンテ株式会社
代表取締役社長
吉荒大祐

基本方針

CSR基本理念

- 1.グローバルで、オンリーワンの品質・ものづくり・開発・技術力を駆使し、自社の強みを活かした付加価値のある製品により、持続可能な社会の実現に寄与します。
- 2.地球温暖化対応や資源の再利用を進め、持続可能な地球環境の実現に貢献します。
- 3.多様性を認めながら、ステークホルダーに対して誠実な対応に努め、誰もが生き生きと働くことで、ステークホルダーからの期待に応え、社会から信頼される存在になります。

CSR基本方針

寿屋フロンテは、自動車内装部品のものづくりで培ってきた品質・技術・改善力を基盤に、持続可能なモビリティ社会の実現に貢献します。電動化、資源循環、サプライチェーン要求の高まりを踏まえ、「地球との共存」「社会との共存」「人との共存」を活動方針の柱とし、環境負荷低減、品質・安全、地域社会、人材、ガバナンスの各領域で継続的な改善を進めます。

3つの活動方針

地球との共存

2050年カーボンニュートラルを見据え、省エネ、再エネ活用、廃棄物削減、リサイクル材活用、材料歩留まり改善を推進。

人との共存

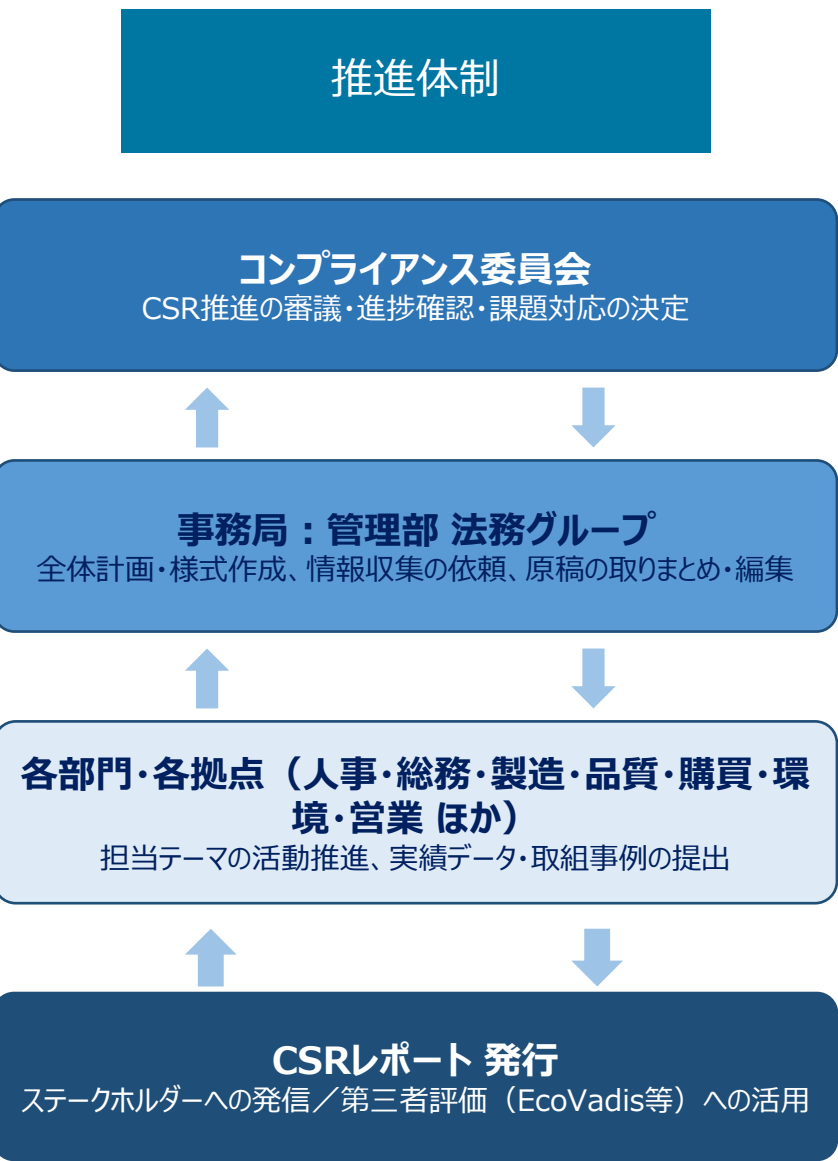
多様な人材がOne Teamとして活躍できる職場づくり、安全衛生、人材育成、ハラスメント防止を推進。

社会との共存

お客様に安心して使っていただける品質・安全性を追求し、地域社会との共生、責任ある調達、安定供給を強化。

重点テーマと主な取り組み

環境	カーボンニュートラル	Scope1・2・3排出量の把握、省エネ設備、再エネ・太陽光発電、EV車導入。
	資源循環	端材リサイクル、廃棄物再資源化、材料歩留まり改善、リサイクル材活用。
社会	品質・お客様価値	品質マネジメント、工程改善、クレーム低減、納期対応の強化。
	人材・安全衛生	安全活動、人材育成、多様性推進、有休取得、メンタルヘルスケア。
ガバナンス		コンプライアンス、情報セキュリティ



環境（E）

環境基本方針

基本理念

寿屋フロンテ株式会社は、この恵みある地球環境の大切さを十分認識し、環境と調和した企業活動を行うことにより、持続可能な社会の実現に貢献してゆきます。

環境方針

寿屋フロンテ株式会社（以下“当社”）は基本理念の実現のため、以下の方針を定めます。

1.当社は汚染の予防及び環境保護を目指し、リサイクルや再資源化のための技術開発を進めます。

また、省エネ・省資源など地球環境を配慮した経営を行い、環境パフォーマンスの向上のために、環境マネジメントシステムを構築し、継続的に改善することをコミットします。

2.当社は環境に関連する法令・条例及び協定事項を遵守し、逸脱またはその恐れがある時は最優先で是正します。

3.当社は事業活動に起因する環境負荷を低減するために、環境目標を定めその実現を目指すとともに、その進展に応じてこれを定期的に見直します。

この環境方針はサイト内の全従業員に周知徹底させるとともに、全てのステークホルダーに公開します。

制定日：2023年6月

■ クリーンな社会づくりに貢献

- カーボンニュートラル(Co2削減)に対する取り組み
 - 省エネルギー（電力、ガソリン、LPG等）
- 再生可能（クリーン）なエネルギー活用推進
 - 太陽光発電、グリーン電力購入、EV車化等
- つくる責任：廃棄物大幅削減、再生利用の促進
 - 廃棄物削減、リサイクル、サステナブル材料および製品

環境に関する取り組み

当社は、太陽光発電、設備の電動化、LED照明、再生可能エネルギーの活用を通じて、生産活動に伴うCO2排出量の削減を進めています。

2025年度の削減量は2019年度比850t/年、2026年度は埼玉工場の使用電力100%再エネ化などにより2,032t/年の削減を見込んでいます。今後も各拠点への横展開と排出量の見える化を進め、2050年カーボンニュートラルを目指します。

2025年度 実績削減量

2026年度 予測削減量

850 t/年

2,032 t/年

16.1%（2019年度比）

38.6%（2019年度比）

■ 太陽光発電設備の導入

太陽光発電設備の導入 全工場への導入を段階的に進め、再生可能エネルギーの活用と購入電力量の削減を推進します



■ フォークリフト・社用車のEV化

工場内設備の電動化により、燃料使用量と排出ガスを削減し、作業環境の改善にもつなげます。



■ 埼玉工場の100%再エネ化

再生可能エネルギーへ切り替え、主要拠点のCO2削減を先行して進めます

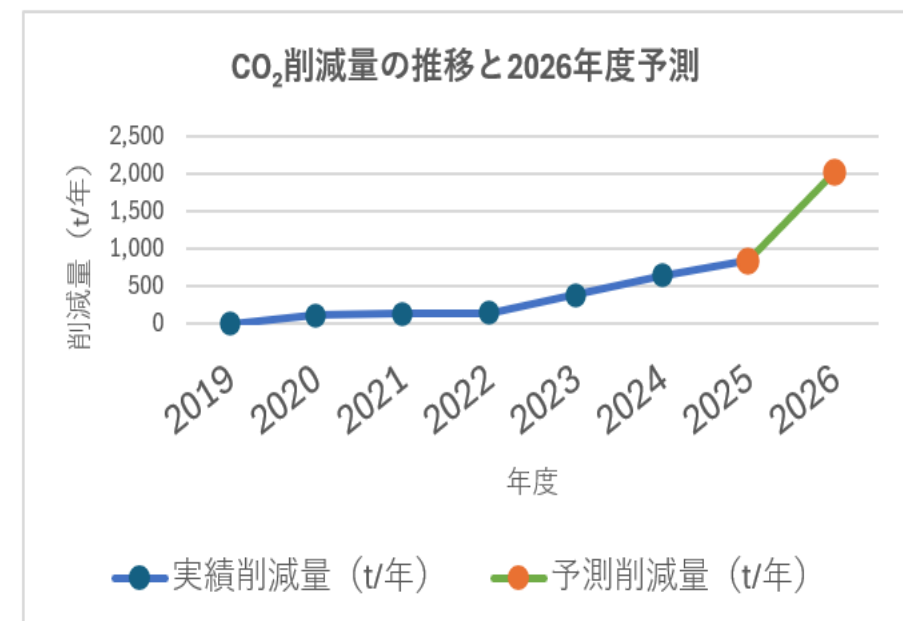


■ LED照明への切り替え

工場・事務所の照明を順次LED化し、日常的な電力使用量の削減と省エネルギー化を進めます。

■ 作業服のリサイクル

不要作業服を回収し、リサイクルに出すことで資源化を推進



環境 (E)

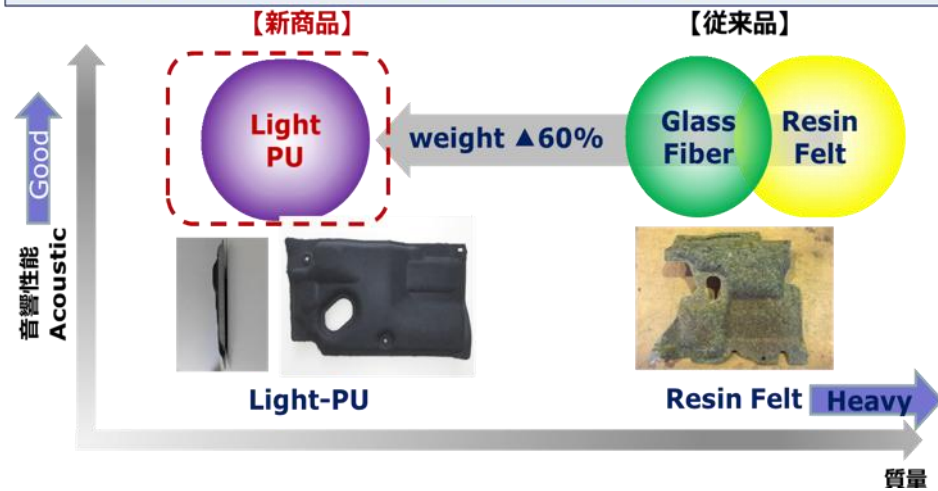
具体的な取り組み内容

■ 軽量化製品の開発

大幅な軽量化：LIGHT-PU

先行開発・製品の強化

- **エンジンインシュレーターの大幅軽量化（約▲60%）を実現**
- **ウレタン（低密度ウレタン）発泡から内製**
- **日本他OEM新車、2機種受注に伴い北米にも設備導入予定**



T's-Light Seat Back

先行開発・製品の強化

【19年度】
初受注

- **内装部品と内装材の共同開発**
事業の垣根を超えた共同先行開発によるテーマアップ
 - ・ **軽量化と車室内静粛性向上**のため、樹脂INJ内装部品を繊維化することで吸音性能を付加し部品重量を軽減。
 - (フロアカーペット等の**繊維成型部品を作る技術を活用**し、吸音性能を有する内装トリム部品を開発。)
 - ・ 「吸音」「軽量」に加えて**ファブリック加飾で意匠性を向上**



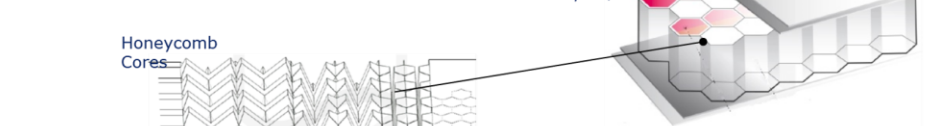
革新的新材料：M-Light® 商標登録済 先行開発・製品の強化

商標登録済 先行開発・製品の強化

- M-Lightは、樹脂の折り畳みHoneycomb Coreを基本構造として**軽量化**を実現
- 両側の樹脂シート構造により**剛性**や**吸遮音**をコントロールでき、**寿屋の技術により、様々な部品に成形可能な材料**です

この材料はベルギーの会社のパテント

★寿屋は製造、販売のライセンスを取得



生産工程で折り畳んで八二カム形状を作る

★画期的“一貫生産”工法

★压倒的效果

- 音響(吸遮音)性能Up
- 輕量化
- 剛性Up

★成形して様々な製品に適用可能

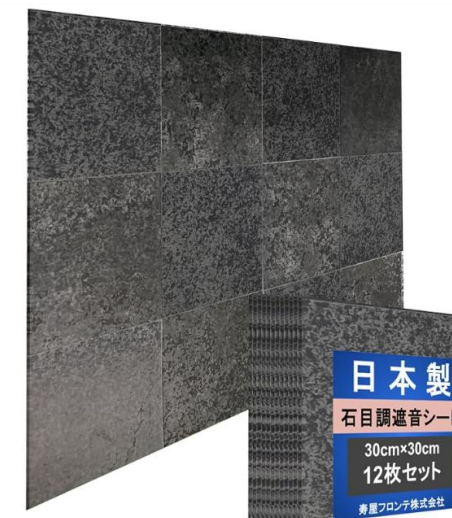
- 内外装部品

■リサイクル製品の開発

Kotobuki-PET®遮音シートは、自動車内装カーペットの製造工程で発生する端材を再利用した、原材料のほぼすべてをリサイクル材で構成する環境配慮型の遮音シートです。主な構成材料はPE樹脂（ポリエチレン樹脂）とPET繊維で、これらにPET不織布を組み合わせ、熱圧縮成形することにより、高い遮音性能を実現しています。この優れた遮音性能により、自動車用ダッシュインシュレータに採用されています。

また、従来のゴム系遮音シートとは異なり、ゴム特有の臭いがなく、さらに優れた断熱性能も兼ね備えているため、快適な室内環境の維持に貢献します。近年では、石目調のデザインを採用した製品も展開しており、意匠性と機能性を両立した壁材や床材として、そのまま使用することが可能です。

このように、自動車用内装部品向け材料としてはもちろんのこと、住宅やオフィスをはじめとする幅広い用途にも対応しており、環境負荷の低減と快適性の向上を両立した次世代型の遮音・断熱材として展開しています。



大幅な材料費削減 : Kotobuki-PET 先行開発・製品の強化

■ **先行開発・製品の強化**

- **ダッシュの大幅競争力を、また同時にカーペット、トランクトリムの競争力も強化！**
- **カーペット、トランクトリムの端材をリサイクル**
 - 受注に伴い、Kotobuki-PET設備をグローバルで3拠点導入済み



労働と人権の基本方針

寿屋フロンテ株式会社（以下“当社”）は、事業活動に関わるすべての人々の人権を尊重し、安全で健康的かつ公正な労働環境を実現することを経営上の重要課題とします。当社は、国際的な人権・労働基準を尊重し、各国・地域の法令および社内規程を遵守します。

本方針は、当社の役員、従業員、派遣社員その他当社事業に従事するすべての者に適用します。また、サプライヤー、協力会社、業務委託先を含むビジネスパートナーにも、本方針の理解と協力を求めます。

1. 基本的な考え方

当社は「安全はすべてに優先する」という考え方を基本に、すべての人が尊厳をもって働き、能力を発揮できる職場づくりを推進します。人権への負の影響を未然に防止し、問題が発生した場合は速やかに是正・再発防止を行います。

2. 重点方針

- ・差別、ハラスメント、いじめ、暴力、威圧的言動を禁止します。
- ・強制労働、人身取引、児童労働を一切認めません。
- ・労働時間、休日、休暇、賃金、福利厚生について法令を遵守します。
- ・労働災害、交通災害、疾病を防止し、安全で健康的な職場環境を整備します。
- ・多様性を尊重し、公正な採用、評価、配置、昇進、教育機会を提供します。
- ・従業員との対話を重視し、結社の自由および団体交渉権を尊重します。

3. 実施体制と取り組み

本方針は、管理部門管掌役員を責任者とし、管理部、安全衛生委員会、各部門責任者が連携して運用します。各部門では、労働・人権リスクの把握、教育の実施、職場改善、KPIの確認を行います。当社は、人権・ハラスメント・コンプライアンス教育、安全衛生活動、従業員アンケート、面談、相談窓口等を通じて、職場環境の改善と継続的に取り組みます。また、サプライヤーに対しても、人権尊重、安全衛生、強制労働・児童労働の禁止を求めます。

4. 通報・相談および是正

当社は、人権侵害、差別、ハラスメント、労働条件、安全衛生、法令違反等に関する相談・通報を受け付けます。相談・通報者の秘密を保持し、不利益な取扱いを禁止します。問題を確認した場合は事実確認、是正措置、関係者教育を速やかに実施します。

制定日：2026年9月

社会に関する取り組み

当社は、すべての人の基本的人権を尊重し、差別やハラスメント、強制労働・児童労働を認めません。従業員一人ひとりが互いの多様性を尊重し、安心して能力を発揮できる職場づくりを進めます。

具体的な取り組み内容

【人権リスクの把握】

労働時間、職場環境、ハラスメントなどの状況を、日常の労務管理や従業員との対話を通じて確認し、課題の早期把握と改善に取り組みます。

【教育・啓発】

人権、ハラスメント防止、コンプライアンスに関する教育を継続して実施し、管理職を含む全従業員の理解向上を図ります。

【多様性と働きやすさ】

性別、年齢、国籍、障がいの有無などにかかわらず、公平な採用・処遇に努めます。適正な労働時間管理、有給休暇の取得促進、メンタルヘルスカを進めます。

【福利厚生】

財形貯蓄、車両購入融資など各種制度の導入、テレワークやフレックスなど柔軟な勤務体系

KPI （2025年度実績）

労災件数	9件
教育時間・受講率	20h・100%
健診・ストレスチェック受検率	100%
女性役職者数	2名
80時間超過者数	0名
育児休暇取得率	57.1%
従業員女性比率	15.3%



社会 (S)

具体的な取り組み内容

【交通安全の啓蒙活動】



自動車産業に関わる企業の一員として、地域で開催される交通安全キャンペーンに参加しています。2024年は「交通安全・マナー向上」を目的に開催されたイベントに参加しました。バイク約500台によるパレードは地域の皆様と一体になり身が引き締まります。

【クリーンアップ活動】



自社周辺のゴミ拾い、除草などの清掃以外にも、福岡県豊前市主催の地域環境美化活動「クリーン作戦」に寿屋フロンテは地域の一員として2000年から毎年参加しています

【バドミントン大会】



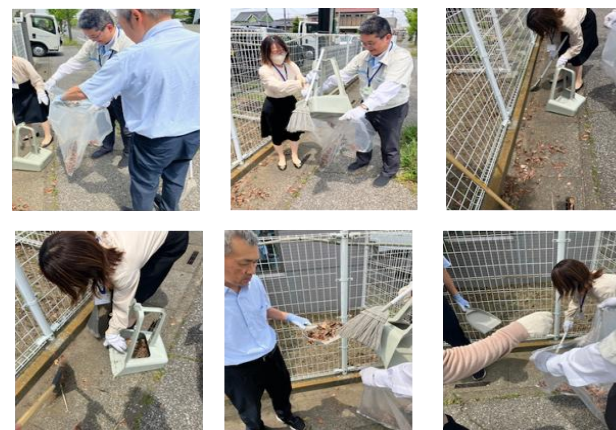
技能実習生たちの交流とストレス発散でバドミントン大会を開催。当社実習生が2年連続優勝！

【小中高生の教育支援活動】



地元小中学校の社会科見学や、高校生の職場体験を受け入れています。
工場見学を通して地域の事を知り、働いている人の動きや機械の動きを見て、ものづくりに興味を持って頂くことが地域企業の役割と考えています。

【地域のゴミゼロ運動に参加】



地域社会の一員として「ごみゼロ運動」などの地域清掃活動に積極的に参加しています。従業員一人ひとりが環境美化への意識を高め、地域の皆さまと協力しながら、快適で住みよいまちづくりに貢献しています。今後も地域とのつながりを大切にし、社会貢献活動を継続してまいります。

【消防訓練】



避難訓練を実施しています。消防署署員から消火栓の使い方の説明を受けたり、防災システムの解説をしていただきました。

ガバナンス（G）

倫理基本方針

1. 基本理念、基本方針

寿屋フロンテ株式会社（以下“当社”）は、サステナビリティ基本方針、及び基本理念に基づき、法令および社会規範を遵守し、以下の項目についてすべての役員および従業員が高い倫理観を持ち、責任ある行動を実践することで、社会から信頼される企業を目指します。

2. 腐敗行為・不正行為の防止

当社は、贈収賄、汚職、不正な利益供与、談合、利益相反、虚偽報告、詐欺的行為、資金洗浄、その他公正な取引を損なう行為を防止します。

関係する法令および社内規程を遵守し、透明性の高い事業活動に努めます。

3. 責任ある情報管理と透明性の確保

当社は、機密情報、個人情報、顧客情報、取引先情報、技術情報等を、法令、契約および社内規程に基づき適切に管理します。

不正アクセス、漏えい、改ざん、紛失、目的外利用の防止に努めます。

4. 公正な取引とサプライチェーン

当社は、すべての取引先に対し、公平・公正かつ誠実に対応します。また、法令遵守、人権、安全衛生、環境、情報管理等に配慮し、責任ある調達と健全なサプライチェーンの構築に努めます。

制定日：2026年9月

サステナビリティ基本理念・方針

<https://www.kf-k.co.jp/sdgs/> に掲載

ガバナンスに関する取り組み

当社は、コンプライアンスと情報セキュリティを中心に取り組み、従業員が安心できる職場づくりを進めます。

コンプライアンスに関する具体的な取り組み内容

【マニュアルの改訂・展開】

会社運営に関係する法律の改正内容を社内に展開すべく、法改正の内容をまとめたコンプライアンスマニュアルを毎年改訂し、社内に展開しています。

【委員会の開催】

毎月、社内におけるコンプライアンスに関連する内容について、情報共有或いは議論を行うようにしています。

【相談の受付、対応】

社内のコンプライアンス事案の相談受付窓口として、上司からコンプライアンス事務局への相談、専用アドレスによるホットラインメール、コンプライアンス事務局への直接相談、契約弁護士への相談と多岐に渡るルートを完備し、相談しやすい環境を提供しております。

【研修の実施】

2025年よりハラスメント防止のための適切な言動に関する研修を開始しました。

【コンプライアンス管理体制／責任者】

代表取締役社長

各取締役

コンプライアンス委員会事務局

相談・通報と救済

従業員が安心して相談できる窓口を設け、相談者の秘密を守り、相談・通報を理由とする不利益な取り扱いを禁止しています。問題を確認した場合は、事実関係を調査し、是正措置と再発防止に取り組みます。

KPI（2025年度実績）

相談・通報件数	10件
相談・通報対応率	100%
是正・再発防止対応率	100%

ガバナンス（G）

情報セキュリティ基本方針

当社は、顧客情報および当社の情報資産をあらゆる脅威から保護し、継続的かつ安定的な事業活動を実現するため、情報セキュリティポリシーを定めています。役員・従業員等が方針を遵守し、組織的・人的・物理的・技術的な対策を継続的に実施・改善します。

【主な実績】

標的型メール訓練を上期・下期の計2回実施しました。また、8月にはサイバーセキュリティ対応訓練を実施し、訓練結果の分析や対象者への注意喚起、フィードバックを行いました。これらの取り組みを通じて、不審メールへの対応力向上および事業継続体制の強化に努めています。また、自動車産業サイバーセキュリティガイドラインのチェックシートによる自己評価を実施し、関係先へ提出しました。

【継続的な対策強化】

ウィルス対策、セキュリティ更新、アクセス管理、バックアップなどの基本的なセキュリティ対策を継続するとともに、サイバーセキュリティ行動マニュアルの整備・見直しを進めています。

また、インシデント発生時に備え、緊急時用PCおよびネットワーク回線を準備しています。インシデント発生時には、対象端末の隔離、影響範囲の確認、復旧、原因分析、再発防止策の実施を行い、必要に応じて経営層および関係部門へ報告します。

今後は、情報セキュリティ教育受講率、インシデント件数、アクセス権限点検実施状況、バックアップ復旧訓練実施状況を継続的に集計・分析し、情報セキュリティ対策のさらなる改善につなげていきます。

制定日：2026年9月

情報セキュリティ管理体制 / 責任者

経営層の方針・指示のもと、管理部を情報セキュリティの統一窓口として、各部門・各拠点と連携して対策を推進します。

【主な役割】

- ・情報セキュリティ方針、基準、手順の整備・見直し
- ・セキュリティ対策の実施、監視、点検
- ・教育、標的型メール訓練、注意喚起
- ・事故発生時の初動、調査、復旧、再発防止
- ・委託先のセキュリティ管理

情報セキュリティに関する具体的な取り組み内容

【サイバー攻撃への備え】

アクセス権限の適正化、ウィルス対策、セキュリティ更新、バックアップなど、多層的な対策を継続します。

【教育・訓練】

全従業員への情報セキュリティ教育、標的型メール訓練、注意喚起を行い、一人ひとりの対応力向上を図ります。

【情報・個人情報の適正管理】

機密区分、保管・持出し・廃棄のルールを定め、個人情報やお客様・取引先情報を適切に管理します。

【インシデント対応と事業継続】

事故発生時の連絡・初動対応・復旧・再発防止の手順を整備し、訓練と見直しを通じて対応力を高めます。

KPI（2025年度実績）

情報セキュリティ教育実施回数	1回
標的型メール訓練実施回数	2回
情報セキュリティインシデント件数	1件
重大な情報セキュリティ事故件数	0件

寿屋フロンテ株式会社
CSRレポート2026年